



栃木市議会議員

こだち孝之の きになる NEWS



No.10

発行責任者
 栃木市大平町富田898-4
 日立GLS労組栃木支部内
 電話 0282-43-3039
 小太刀 孝之
 編集者 池田 祐生

8/30から9/30までの会期（32日間）で、令和6年度9月定例議会が開催されました。主な議題は令和5年度の決算の認定でありました。より詳細な審査を行うために、決算特別委員会を設置し4つの分科会に分かれて専門的に審査し、認定第2号令和5年度一般会計歳入歳出決算は認定されました。



令和5年度に実施された事業（主なもの）

事業内容	事業費（千円）
◆斎場再整備事業費 ・新斎場が竣工し、令和5年10月から利用開始	2,800,105
◆とちぎクリーンプラザ施設保守整備事業費 ・適切なごみ処理を継続して行うために焼却施設の改良工事を実施	1,795,220
◆ふるさと応援寄付事業費 ・全国からの寄付（ふるさと納税）を募り、謝礼として市内の特産品を贈呈	697,240
◆消防庁舎整備事業費 ・消防本部・消防署の庁舎が竣工し、令和5年9月から順次利用を開始	981,670
◆雨水・浸水対策事業費 ・強制排水施設や調整池等の整備費用	43,434
◆出産・子育て応援ギフト事業費 ・「伴走型相談支援」と「応援ギフトの提供」を一体的に実施	78,630
◆栃木県誕生150年記念イベント開催事業費 ・記念行事として人形山車の展示等の実施	2,600
◆定住促進支援事業費 ・移住定住促進のため、各種助成や移住定住コーディネーターを配置	127,810
◆部活動地域移行事業費 ・休日の部活動地域移行を段階的に進めるために、地域指導者を派遣	1,020

9月定例議会で決まった （主な議案）

一般会計補正予算（第4号）
 議案第94号
 令和6年度栃木市一般会計
 補正予算（第4号）
 可決 全会一致

歳入歳出にそれぞれ11億9364万6千円を追加し、予算総額を778億5205万2千円とするもの。

【主な内容】

- ・学童保育事業費
- ・部屋南部地区かんがい排水事業負担金
- ・農地耕作条件改善事業費
- ・電気・ガス価格高騰対策中小企業者支援補助金
- ・橋梁長寿命化修繕事業費
- ・中学校施設整備事業費

※市長から補正予算案に計上した事業の一つについて、事前説明資料の数値に誤りが発覚したため、議案を撤回したいとの申し出があり、議会が承認した後、再度補正予算案の提出があり、審議を行いました。
 （屋内遊戯施設利用料割引補助金を削除した案）

一般質問報告

令和6年度9月定例議会にて、9月5日に一般質問に登壇させていただきました。今回の一般質問では、小学校のボランティアに参加した保護者の方から頂いたご意見をもとに、小中学校における施設および設備の安全点検について一般質問を行いました。以下、一部の質問内容をご報告させていただきます。

※9月議会は14名の議員が一般質問に登壇しました。



◆小中学校における施設および設備の安全点検について

- (1) 本市における学校安全計画策定
および安全点検実施状況について
- (2) 安全点検の方法について
- (3) 安全点検結果に対する
取り組みについて
- (4) 安全点検の実施主体について
- (5) リスクアセスメントの必要性について**



【質問】

小学校にボランティアに参加した保護者から次のようなご意見を頂いた。

「教室の各児童が使用する木製のロッカー（ランドセル等をしまう所）の開口部のささくれをテープ等で補修するというものでした。他にも、作業が終わり片付けの際、清掃のため掃除用が入っているスチール製のロッカーを開けようとしたところ、扉の取っ手部分（プラスチック製）が無いことに驚きました。応急処置としてテープによる保護がされていたものの、不特定多数の児童が使用するにも関わらず、取っ手が無い部分はスチール製のロッカーの鋭利な端部が出ていて、より危険に感じました。こういった備品の管理や点検はどうやっているのか？」

施設や設備の点検は、学校安全計画に基づき実施されていると思うが、現場においては教職員や事務職員方々個人に、危険に対する感受性と判断力が求められる。また、点検者によって評価に差が生じてしまうことは避けなくてはならない。働く現場では労働災害を出来るだけ発生させないように、また万が一発生した場合でも軽度なものにする取り組みとして、リスクアセスメントがある。これは、職場全体のリスクを洗い出し、当該リスクが実現したときの影響の見積もり、重大な影響を与えると想定されるリスクから優先的に対策を検討して実施することで、災害を未然に防止する取り組みである。導入した場合の効果として、職場のリスクが明確になる、リスクに対する認識の共有、安全対策の合理的な優先順位の決定、残ったリスクに対する「守るべき決め事」の理由の明確化、職場全員が参加することで危険に対する感受性が高まるなどが挙げられる。教育現場でもリスクアセスメントを実施することで僅かな可能性を見過ごさない、参加者それぞれが考察し、自分の意見を言う、他の参加者の意見を聞くことで危険に対する意識や感受性が高まる効果が期待できる。これらは、座学や研修では経験できない。リスクアセスメントの必要性について、本市の見解を伺う。

【答弁】

本市では、各校において学校安全計画に基づき、安全点検や危機管理体制に関する研修等を実施している。また、リスクアセスメントについては、災害を未然に防止する、あるいは発生時に被害を最小限にとどめるといった点からも、非常に重要であると考えられる。各校では、教職員が安全点検を行い、危険と判断した箇所を安全担当教員と管理職と一緒に確認し、危険の見積もり、対策を検討し、安全点検の結果を一覧表として作成するなど、全教職員で情報を共有しているのが現状である。今後、教育委員会としても、学校におけるリスクアセスメントに関する優れた実践例等を参考に、更に教職員の危険に対する意識を高め、引き続き学校における施設および設備による事故等の防止に努める。



※一般質問の詳細は
こちらからアクセス

